

みんなの健康ラジオ

『認知症』

(2023年10月26日放送)

横浜市精神科医会

(医) 哺育会横浜相原病院

藤渡 辰馬

治る認知症

- 脳外科手術などで治療可能なもの
→慢性硬膜下血腫、脳腫瘍
正常圧水頭症etc
- ホルモンやビタミンを補うことで
治療できるもの
→甲状腺機能低下症
ビタミン欠乏症etc
- うつ状態による集中力低下

治らない認知症

- アルツハイマー型認知症
- 脳血管性認知症
- レビー小体型認知症

認知症の考え方

< 生物学的視点 >

認知症は脳神経機能の低下とそれによって起こる問題行動や心理状態である

→薬や食事などによって「克服すべき課題」「矯正すべき障害」と捉え
認知機能を向上させ“治そう”とする姿勢が強く感じられる

< 症候学的視点 >

認知症は自己肯定感が傷つき、これまでの対人関係が壊れる病であり、関係性悪化を背景とした精神的反応として問題行動が生まれる

→脳機能の維持・向上を第一には考えず、自己肯定感を回復・維持し生きがいをもって人生を送れることを優先する対応を考えていく

クリスティン・ボーデン

- ・ オーストラリアにて出生
- ・ IQが200を超え、国家公務員としてオーストラリア政府機関にて働く
- ・ 46歳のときにアルツハイマー型認知症が疑われ、その後前頭側頭型と確定診断

- ・ 表現された内界

「霧の中を苦闘して生きるようなもので、だんだん感情的になり認識力が衰えてくるので、あなた方の言っていることの内容ではなく、その言い方が記憶に残る。感覚としてわかるけれども、その筋道はわからず、あなたの微笑み、笑い、そしてあなたの感触が私たちに通じるものだ」

～2004年国際アルツハイマー病協会国際会議 in 京都